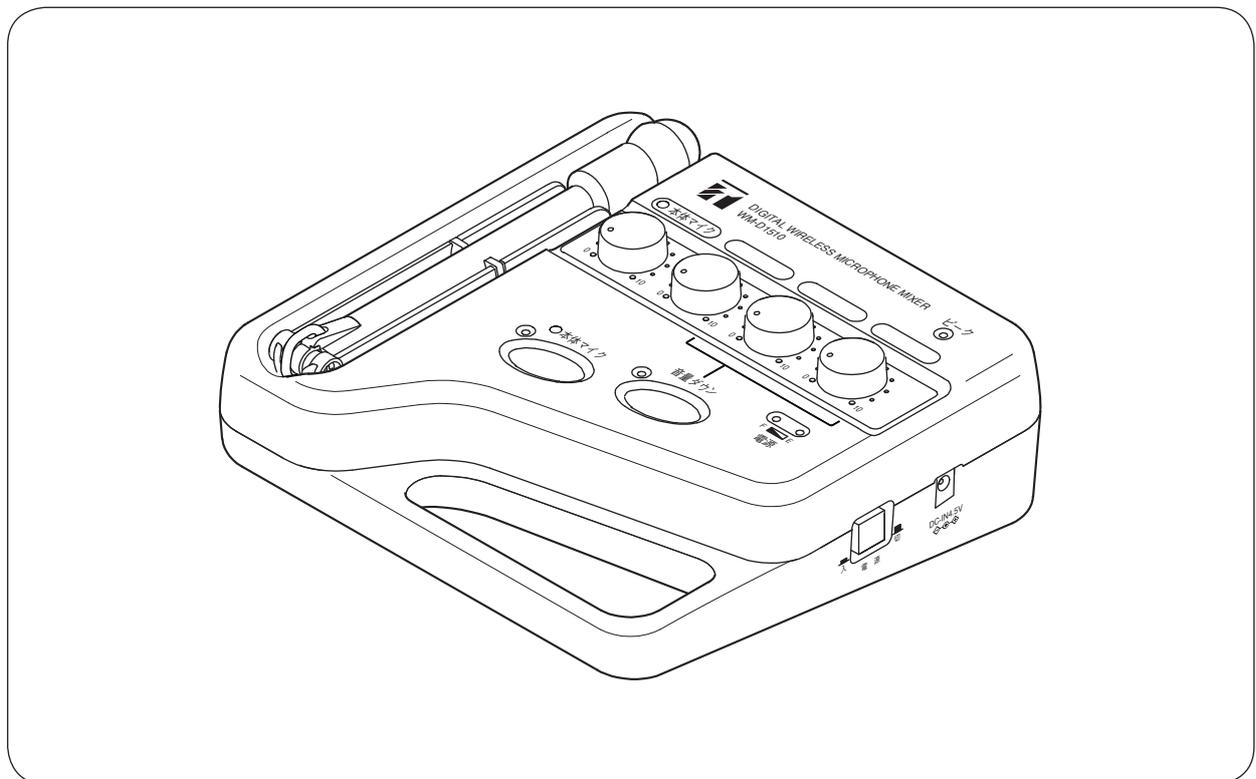


デジタルワイヤレスマイクミキサー

WM-D1510



このたびは、TOA デジタルワイヤレスマイクミキサーお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みにになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目次

安全上のご注意	3
概要	6
特長	6
使用上のご注意	6
各部の名称とはたらき	7
操作をする前に	8
グループ、チャンネルの設定のしかた	9
チャンネルプランを立てる	9
グループ・チャンネルを設定する	11
モードを切り換えるとき	12
情報の漏えいを防ぐ (WT-D1812、WT-D1814 との組み合わせ時のみ)	13
セキュリティ設定の概要	13
セキュリティ設定のしかた	14
近接エリア間で同じグループ・チャンネルを使用するとき	15
コード設定 (セキュリティ OFF 時)	15
送信出力切換スイッチの設定	16
電池の使いかた	17
電池の入れかた	17
電池の使用時間の目安	17
上手な使いかた	18
接続のしかた	18
操作のしかた	19
使用例	20
本体マイクを使用するとき	20
本体マイクを使用しないとき	20
故障かな?と思ったら	21
仕様	23
付属品	23

安全上のご注意

- ご使用前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

行為を禁止する記号			行為を強制する記号	
				
分解禁止	禁止	接触禁止	強制	電源プラグを抜く



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようご注意ください。
火災・感電の原因となります。



禁止

指定外の電源電圧で使用しない

表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。



禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



禁止



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

使用するとき

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、ACアダプターをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）



電源プラグを抜く

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。

内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。



分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



禁止

内部に異物を入れない

本機の端子部などから内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。

火災・感電の原因となります。



禁止

雷が鳴ったらさわらない

雷が鳴り出したら、電源プラグにはさわらないでください。

感電の原因となります。



接触禁止

医療機器の近くで使用しない

電磁波で医療機器に影響を与えることがあります。

本機の電源を必ず切ってください。



禁止



注意

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となることがあります。



禁止

電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

必ずプラグを持って抜いてください。



禁止

移動させるときは電源プラグを抜く

差し込んだまま移動させるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



電源プラグを抜く



注意

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容
および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

湿気やほこりの多い場所などに置かない

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。



禁止

使用するとき

上に重いものを置かない

本機のバランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。



禁止

AC アダプターは付属品を使用する

付属品以外のものを使用すると、火災の原因となることがあります。



強制

電池の液もれに注意する

長期間使用しないときや常時 AC 電源でご使用になるときは、電池を取り出しておいてください。
電池から液がもれて、火災・けが・周囲汚損の原因となることがあります。



強制

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意

お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り、AC アダプターをコンセントから抜いてください。
守らないと、感電・火災の原因となることがあります。



電源プラグ
を抜け

電池の取り扱いに注意する

次のことを必ずお守りください。
守らないと、電池の液もれ・破裂により、火災・けがの原因となることがあります。

- ショート・分解・加熱をしたり、火の中に入れてたりしない。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
- 電池に直接はんだ付けしない。
- 指定した電池を使用する。
- (+) と (-) に注意し、表示どおり正しく入れる。
- 直射日光・高温・高湿の場所を避けて保管する。



強制

概要

本機は、ミキシング機能付きデジタルワイヤレスマイクです。

4系統の入力を持ち、有線マイクや、音源機器（携帯型音楽プレーヤー、タブレット、パソコンなど）の音声をミキシングして送信することができます。

以下の機器と組み合わせて使用します。

- ・デジタルワイヤレスチューナー WT-D1812 または WT-D1814
- ・デジタルワイヤレスチューナーユニット WTU-D2810 を組み込んだ機器

特長

- 800 MHz 帯 PLL シンセサイザー方式を採用しており、B型に割り当てられた30波の中から任意の1波を選択し、同一場所で使用するときには、最大15本のマイクが使えます。
- 独自のデジタルオーディオ信号処理を採用していますので、高音質です。
- デジタル伝送により、混信やノイズに対して強く、安定した伝送が可能です。
- デジタル伝送および独自のセキュリティ設定により、重要な会議などの使用場面において、情報の漏洩を未然に防ぐことができます。
- コンパクトに収納できる本体マイクを備えています。
- 外部マイク入力4系統（うち2系統はライン入力としても使用可）を備えており、有線マイクや演奏機器などの音声をミキシングして使用できます。
- 入力3、4には「音量ダウンスイッチ」を備えており、呼び出し放送などで一時的にBGMなどの音量を下げたいときに便利です。
- 送信出力の切り換えが可能で、近接エリア間での同一グループ・チャンネルの使用から広いエリアでの使用まで、幅広い使用条件に対応しています。
- 電源は、付属のACアダプター、または単3形アルカリ乾電池（LR6）から選択できます。
- 内蔵アンテナを採用しています。

使用上のご注意

- このワイヤレスマイクミキサーは電波法に規定される技術基準適合証明品です。機器底面にその証明番号を記載したラベルが貼ってあります。傷つけたりはがしたりしないでください。
- 分解や改造は法律で禁じられています。
- 床に落としたり、かたい物に当たったりしないでください。故障の原因となります。
- 夏の閉めきった車内のような温度の高い所や、湿度の高い所に置かないでください。故障の原因となります。
- 汗や海水のかかる所では使用しないでください。故障の原因となります。
- 本機を清掃するときには、必ず電源を切ってから、乾いた布でふいてください。また、ひどい汚れは中性洗剤をしみこませた布を使用してください。ベンジン・シンナー・アルコール類・化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。変形や変色の原因になります。
- 本機を、蛍光灯、デジタル機器などの高周波雑音を発生する機器および携帯電話などの通信機器の近くで使用しないでください。ノイズが入ることがあります。

各部の名称とはたらき

[上面]

本体マイク／入力1 音量調節つまみ

本体マイクまたは入力1に接続したマイクの音量を調節します。
 ※ 入力1にマイクが接続されているときは、入力1のみの音量調節となります。

本体マイク

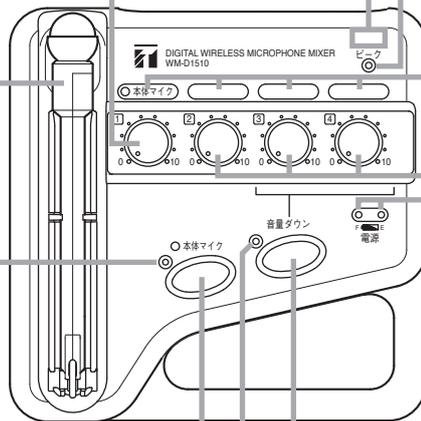
使用時はアームを起こして口元にマイクをセットします。

本体マイクON/OFF表示灯

本体マイクON時に橙色に点灯します。
 ※ 入力1にマイクが接続されているときは、本体マイクON/OFFスイッチを押しても点灯しません。

本体マイクON/OFFスイッチ

押すと本体マイクがONになり、もう一度押すとOFFになります。
 ※ 入力1にマイクが接続されているときは、このスイッチは機能しません。(本体マイクは使用できません。)



チャンネルシール貼付部

付属のチャンネルシールを使用してください。

ピーク表示灯

過大入力時に赤色に点灯します。点灯しないように、音量を調節してください。

入力表示シール貼付部

付属の入力表示シールを使用してください。

入力2、3、4音量調節つまみ

それぞれの入力端子に接続した機器の音量を調節します。

電源表示灯(バッテリーチェッカー)

- 電源スイッチを「入」にすると緑色灯が点灯します。
- 電池使用時はバッテリーチェッカーとして働きます。(P.17)
- グループ・チャンネルの誤設定のときに赤と緑が交互に点灯します。(設定のしかた P.9)

音量ダウン表示灯

音量ダウンスイッチON時に橙色に点灯します。

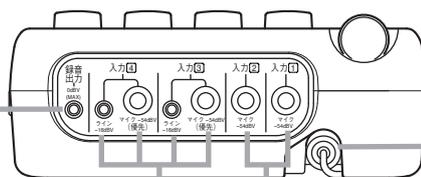
音量ダウンスイッチ

押すと入力3、4に接続された機器の音量が下がります。(減衰量20dB) もう一度押すと、元に戻ります。

[後面]

録音出力端子

ICレコーダーなどの録音機器を接続します。(0 dB*、1 kΩ、不平衡、ステレオミニジャック)
 ※ 接続にはステレオミニプラグをお使いください。モノラルミニプラグを接続するとレベルが低下します。



本体マイク入力端子

本体マイクのプラグが接続されています。(−46 dB*、600Ω、不平衡、ミニジャック)

入力3、4端子(マイク／ライン)

マイク：有線マイクを接続します。
 (−54 dB*、2 kΩ、不平衡、ホーンジャック)
 ライン：携帯型音楽プレーヤーなどの音源機器を接続します。
 (−16 dB*、10 kΩ、不平衡、ステレオミニジャック)
 ※ マイクとラインの両方に接続した場合は、マイクが優先になります。

入力1、2端子(マイク)

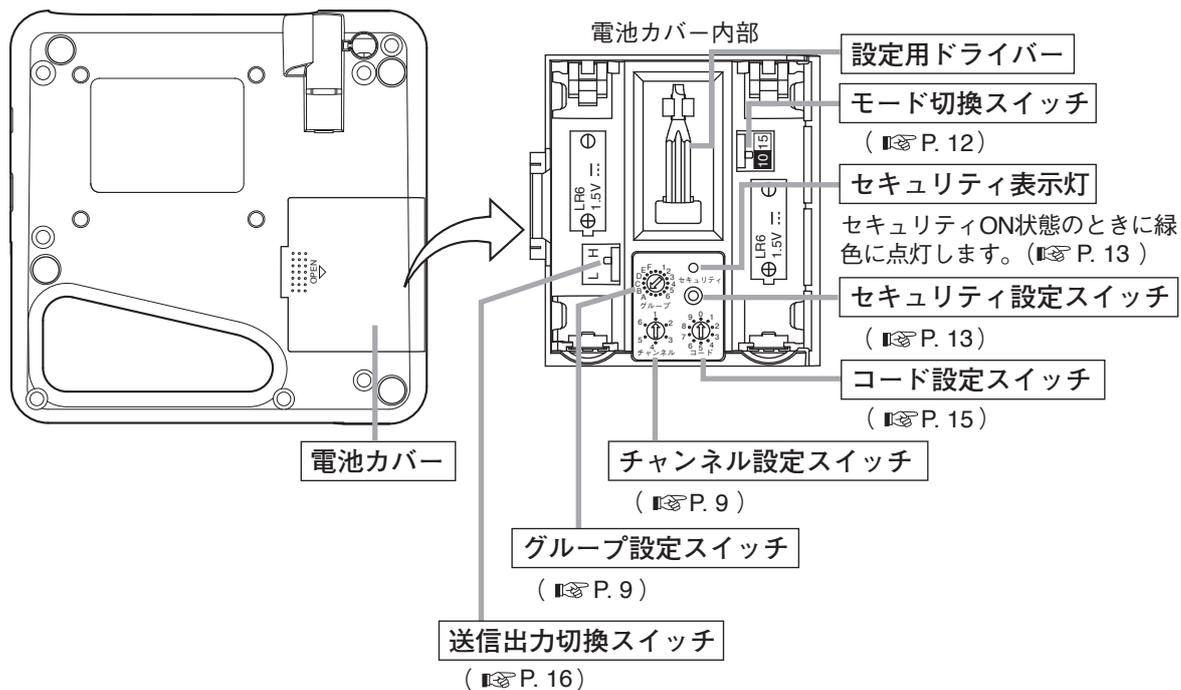
有線マイクを接続します。(−54 dB*、2 kΩ、不平衡、ホーンジャック)

ご注意

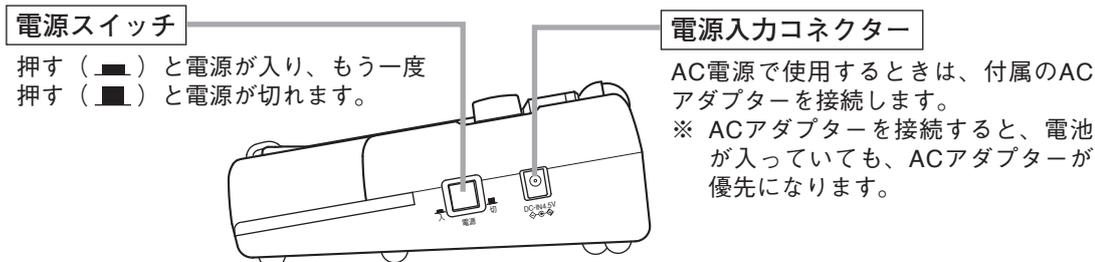
入力1にマイクを接続すると、本体マイクは使用できません。

* 0 dB = 1V

[底面]



[側面]



ご注意

次のようなときは、必ず電源を切ってください。
電源を入れたまま行くと、雑音が出ることがあります。

- ACアダプターの接続を外すとき
- ACアダプターをコンセントから抜くとき
- 電池を取り出すとき

操作をする前に

操作する前に次のことを確認してください。

- 本機とワイヤレスチューナーのグループおよびチャンネルが同じ番号に設定されていることを確認してください。
- 付属のACアダプターが本機とAC100Vコンセントに正しく接続されている、または単3形アルカリ乾電池(LR6)2本が正しく入っていることを確認してください。
- 各音量調節つまみは、最小の位置にあることを確認してください。
- 使用する機器(有線マイク、携帯型音楽プレーヤーなど)を接続してください。

グループ、チャンネルの設定のしかた

■ チャンネルプランを立てる

重要

- 周波数表にないグループ、チャンネルに設定しても送信されません。
- ワイヤレスチューナーと本機は同じ設定にしてください。
- 以下の機器との組み合わせで使用できます。
 - ・ デジタルワイヤレスチューナー WT-D1812 または WT-D1814
 - ・ デジタルワイヤレスチューナーユニット WTU-D2810 を組み込んだ機器
- モード切換スイッチのない TOA 製デジタルワイヤレスチューナーユニットを組み込んだ機器との組み合わせでは、10 波までの同時使用の場合に限り使用できます。11 波以上の同時使用の場合は使用できません。
- お買い上げ時は、BA1 に設定されています。
- 本機とチューナーユニットのモード切換スイッチを以下のように設定してください。

同時使用数	モード切換スイッチ	設定のしかた
1～10 波まで	10 ch モード(お買い上げ時)	本機  P. 12 「モードを切り換えるとき」
11～15 波まで	15 ch モード	チューナーユニット  チューナーまたはチューナーユニットを組み込んだ機器に付属の取扱説明書

[800 MHz 帯ワイヤレスマイクのチャンネル呼称について]

- 例 B A 1
- └ グループ内のチャンネル番号を表す
 - └ グループ番号を表す
 - └ 800 MHz 帯を表す

同じ場所でデジタルワイヤレスシステムのみを使用する場合と、アナログワイヤレスシステムを併用する場合でチャンネルプランの立てかたが異なります。

- ・ 同じ場所でデジタルワイヤレスシステムのみを使用する場合  P. 10
- ・ 同じ場所でアナログワイヤレスシステムを併用する場合  P. 11

● 同じ場所でデジタルワイヤレスシステムのみを使用する場合（最大 15 波）

1 右の周波数表（デジタル専用）を参照し、グループの「A」～「F」から1つ選択する。

2 その中から使用可能なチャンネルを1つ選択する。

各グループとも5チャンネルまで使用できます。
例えば周波数表の「A」グループの場合、A列の「BA1」～「BA5」までが使用可能なチャンネルとなります。

3 1～5波まで使用するときは、手順1で決めたグループと同じグループの中からチャンネルを選択する。

モード切換スイッチの設定：10 ch モード

4 6～10波まで使用するときは、手順1で決めたグループと同時使用可能なグループの中からチャンネルを選択する。（下表を参照）

グループ	チャンネル	
A	1～5	同時使用可能なプラン
B	1～5	
C	1～5	同時使用可能なプラン
D	1～5	
E	1～5	同時使用可能なプラン
F	1～5	

モード切換スイッチの設定：10 ch モード

5 11～15波まで使用するときは、手順1で決めたグループと同時使用可能なグループの中からチャンネルを選択する。（下表を参照）

グループ	チャンネル	
A	1～5	同時使用可能なプラン
D	1～5	
E	1～5	
B	1～5	同時使用可能なプラン
C	1～5	
F	1～5	

モード切換スイッチの設定：15 ch モード

グループ						SW 設定		周波数 (MHz)
A	B	C	D	E	F	GR	CH	
					BF1	F	1	806.125
			BD1			D	1	806.250
	BB1					B	1	806.375
				BE1		E	1	806.500
		BC1				C	1	806.625
BA1						A	1	806.750
					BF2	F	2	806.875
			BD2			D	2	807.000
	BB2					B	2	807.125
				BE2		E	2	807.250
		BC2				C	2	807.375
BA2						A	2	807.500
					BF3	F	3	807.625
			BD3			D	3	807.750
	BB3					B	3	807.875
				BE3		E	3	808.000
		BC3				C	3	808.125
BA3						A	3	808.250
					BF4	F	4	808.375
			BD4			D	4	808.500
	BB4					B	4	808.625
				BE4		E	4	808.750
		BC4				C	4	808.875
BA4						A	4	809.000
					BF5	F	5	809.125
			BD5			D	5	809.250
	BB5					B	5	809.375
				BE5		E	5	809.500
		BC5				C	5	809.625
BA5						A	5	809.750

※ SW 設定：スイッチ設定

GR：グループ

CH：チャンネル

● 同じ場所でアナログワイヤレスシステムを併用する場合（最大6波）

1 右の周波数表（アナログ併用）を参照し、グループを「1」～「6」から1つ選択する。

2 その中から使用可能なチャンネルを1つ選択する。

グループにより使用できるチャンネル数は異なります。（下表を参照）

グループ	チャンネル
1	1～6
2	1～6
3	1～6
4	1～6
5	1～5
6	1

例えば周波数表の「1」グループの場合、1列の「B11」～「B16」までが使用可能なチャンネルとなります。

ご注意

■で示された2つの周波数を同時に使用する場合は、いずれもアナログワイヤレスシステムを使用するように周波数の配置をしてください。

グループ						SW 設定		周波数 (MHz)
1	2	3	4	5	6	GR	CH	
B11						1	1	806.125
	B21					2	1	806.250
B12						1	2	806.375
	B22					2	2	806.500
		B31				3	1	806.625
			B41			4	1	806.750
		B32				3	2	806.875
	B23					2	3	807.000
B13						1	3	807.125
					B61	6	1	807.250
		B33				3	3	807.375
			B42			4	2	807.500
				B51		5	1	807.625
B14						1	4	807.750
	B24					2	4	807.875
			B43			4	3	808.000
				B52		5	2	808.125
		B34				3	4	808.250
				B53		5	3	808.375
	B25					2	5	808.500
		B35				3	5	808.625
				B54		5	4	808.750
	B26					2	6	808.875
B15						1	5	809.000
			B44			4	4	809.125
		B36				3	6	809.250
			B45			4	5	809.375
B16						1	6	809.500
				B55		5	5	809.625
			B46			4	6	809.750

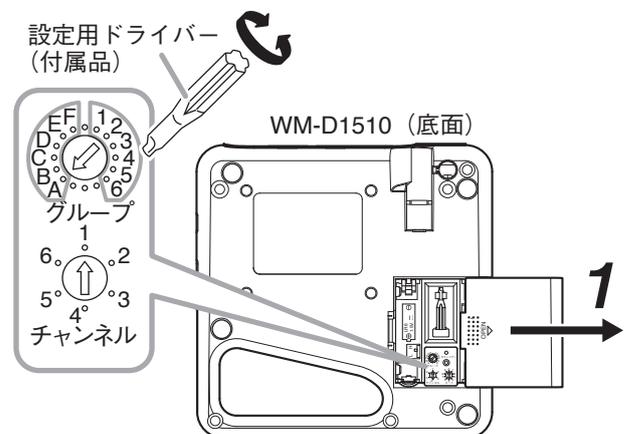
※ SW 設定：スイッチ設定
GR：グループ
CH：チャンネル

■ グループ・チャンネルを設定する

1 電源スイッチが「切」になっていることを確認し、電池カバーを外す。

2 付属の設定用ドライバーで、設定したいグループとチャンネルに合わせる。

3 電池カバーを元どおりにはめ込む。



グループ A～F：デジタル専用
グループ 1～6：アナログ併用

■ モードを切り換えるとき

● 10 ch モードと 15 ch モードの概要

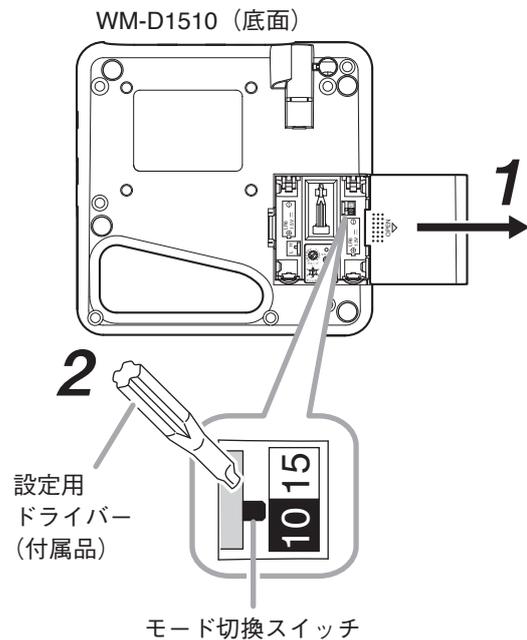
10 ch モードに設定すると、同時使用可能なワイヤレスマイクの本数は 10 本までとなります。
15 ch モードに設定すると、同時使用可能なワイヤレスマイクの本数は 15 本までとなります。
お買い上げ時は 10 ch モードに設定されています。
11 本以上同時に使用したい場合に 15 ch モードに切り換えてください。

■ ご注意

本機とワイヤレスチューナーは必ず同じモードに設定してください。
異なるモードに設定されていると、音が出ません。

● モードの切り換えかた

- 1** 電源スイッチが「切」になっていることを確認し、電池カバーを外す。
- 2** 付属の設定用ドライバーで、モード切換スイッチを切り換える。
「10」側：10 ch モード（お買い上げ時の設定）
「15」側：15 ch モード
- 3** 電池カバーを元どおりにはめ込む。



情報の漏えいを防ぐ (WT-D1812、WT-D1814 との組み合わせ時のみ)

本機には、伝送情報の漏えいを防ぐ目的で、セキュリティを強化するセキュリティ設定機能を設けています。セキュリティ設定を ON にすると、混信が起りにくくなる利点もあります。設定にあたっては、グループ・チャンネルおよびモード切換スイッチの設定を完了しておいてください。

ご注意

デジタルワイヤレスチューナーユニット WTU-D2810 を組み込んだ機器との組み合わせ時は、セキュリティ設定機能は使用できません。

メモ

設定は本機と同様にデジタルワイヤレスチューナー (WT-D1812 または WT-D1814) でも必要となりますので、必ずデジタルワイヤレスチューナーに付属の取扱説明書も併せてお読みください。

■ セキュリティ設定の概要

【使用前 (設定操作時)】

本機からチューナーに、ID を送る操作を行います。

ID は本機側でランダムに選択されます。使用される ID は、膨大な組み合わせから選択される上、操作者が指定することはできず、外部からは特定できません。

【使用時】 ※この機能のための操作はありません。

チューナーが本機から電波を受信するとき、本機の ID 情報を同時に受け取り、チューナーと同じ ID の本機の音声のみを出力します。

外部から電波を受信しようとして、グループ・チャンネルを合わせても、ID が一致していなければ、音声が出力されないの、伝達情報が外部に漏えいする可能性は極めて低くなります。

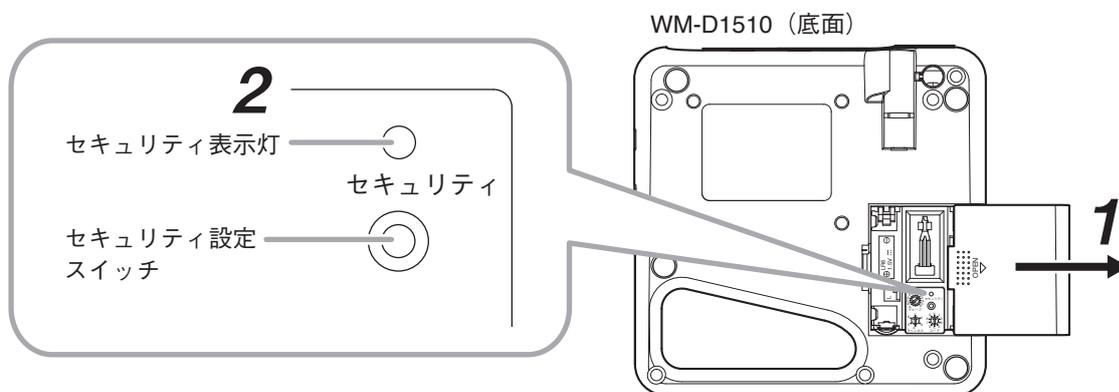
● セキュリティ ON/OFF の確認のしかた

1 電池カバーを外して、本機の電源スイッチを「入」にする。

2 セキュリティ表示灯を確認する。

点灯のときはセキュリティ ON 状態、消灯のときはセキュリティ OFF 状態です。

※ お買い上げ時には、セキュリティは OFF に設定されています。



■ セキュリティ設定のしかた

■ ご注意

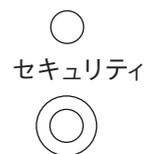
- セキュリティ設定をする前に、ワイヤレスマイクとチューナーユニットのモード切換スイッチの設定を同じにしておいてください。(P. 12 「モードを切り換えるとき」)
- セキュリティ ON に設定した後でモードを切り換えたときは、以下の設定を手順 2 からやり直してください。

● セキュリティ OFF から ON への切り換えかた

1 チューナーのセキュリティ ON/OFF 切換スイッチを ON にする。

2 電池カバーを外した状態で本機の電源スイッチを「入」にし、セキュリティ表示灯が消灯していることを確認する。

点灯している場合、セキュリティ ON から OFF への切り換えを行ってください。(P. 15)



3 本機の電源スイッチを「切」にする。

4 本機のセキュリティ設定スイッチを押しながら（手順 6 まで押し続ける）、本機の電源スイッチを「入」にする。

本機のセキュリティ表示灯が点滅していることを確認します。
本機のセキュリティ設定スイッチを押している間に ID が送信されます。



5 チューナーのセキュリティ設定スイッチを先の細いもので押し続ける。

チューナー側では、セキュリティ設定スイッチを押している間に、本機からの ID を待ち受けます。ID が正しく受信できるまで、チューナーのセキュリティ表示灯は点滅します。

※ 詳しくは、WT-D1812 または WT-D1814 に付属の取扱説明書をお読みください。

■ ご注意

スイッチを強く押しすぎないでください。故障の原因となります。

6 チューナーのセキュリティ表示灯の消灯を確認し、本機およびチューナーのセキュリティ設定スイッチを離す。

チューナーで ID が受信できると、チューナーのセキュリティ表示灯が消灯します。

7 本機およびチューナーのセキュリティ表示灯が点灯していることを確認する。
セキュリティ設定が ON になります。



■ ご注意

- 設定中および設定後すぐには本機、チューナーの電源を切らないでください。
- チューナーのセキュリティ表示灯が消灯するまで、本機およびチューナーのセキュリティ設定スイッチを押し続けてください。
チューナーのセキュリティ表示灯が点滅のまま、本機またはチューナーのセキュリティ設定スイッチを離すと、チューナーでは ID を受信できておらず、ID は前の値のままとなります。本機の ID と一致させるには、本機のセキュリティ設定を一度セキュリティ OFF に切り換えた後、再度上記の手順 1～7 の操作を行ってください。

■ × 毛

- 再度セキュリティ OFF から ON への切り換えを行うと、ID が更新されます。
(セキュリティ ON/OFF および ID は、電源スイッチを「切」にしても保持されます。)

- 本機とチューナーのセキュリティ設定スイッチを押す順序は、どちらが先でも設定できます。
- ID 設定中は、チューナーは本機の電波を受けても音声を出力しません。

● セキュリティ ON から OFF への切り換えかた

1 電池カバーを外した状態で本機の電源スイッチを「入」にし、セキュリティ表示灯が点灯していることを確認する。



2 本機の電源スイッチを「切」にする。

3 セキュリティ設定スイッチを押しながら、本機の電源スイッチを「入」にする。

ご注意

設定中は本機の電源を切らないでください。

4 セキュリティ表示灯が消灯していることを確認し、セキュリティ設定スイッチを離す。

セキュリティ設定が OFF となります。



近接エリア間で同じグループ・チャンネルを使用するとき

近接エリア間で同一グループ・チャンネルのデジタルワイヤレスマイクを使用するときは、コード設定を行ってください。送信出力切換スイッチの設定も必要に応じて行ってください。

コード設定を行うときは、必ずセキュリティ設定を OFF にしておいてください。また、グループ・チャンネルの設定を完了しておいてください。

メモ

コード設定は本機と同様にデジタルワイヤレスチューナー（WT-D1812またはWT-D1814）、デジタルワイヤレスチューナーユニット（WTU-D2810）でも必要となりますので、必ず組み合わせて使用する機器に付属の取扱説明書も併せてお読みください。

■ コード設定（セキュリティ OFF 時）

● コード設定の概要

ワイヤレスマイクとチューナーの間であらかじめコードを決めておき、ワイヤレスマイクから受信するデジタル信号の中にチューナーと同じコードが含まれていれば、音声が出力されます。もし、隣接するエリアからの妨害源となる信号を受信してもコードが一致しなければ、音声は出力されません。

「0」～「9」までの10種類のコードを搭載しており、状況に応じて切り換えが可能です。

近接エリア間で同一グループ・チャンネルのワイヤレスマイクを使用したいとき、異なるコードを使用することにより、混信を避けることができます。

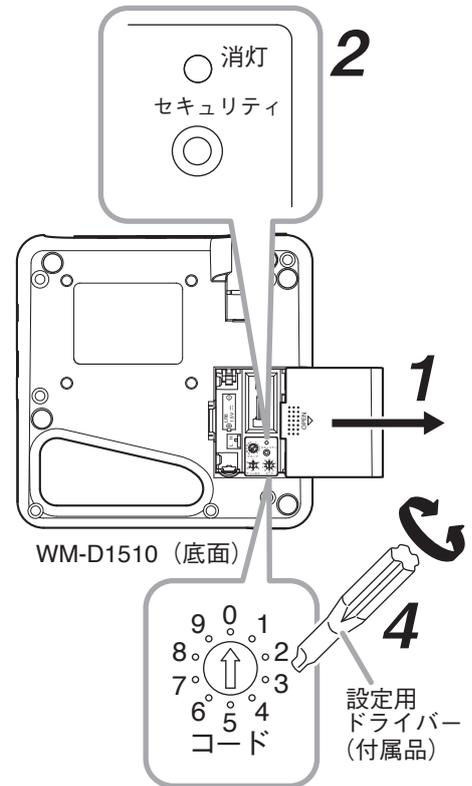
● コード設定のしかた

ご注意

- お買い上げ時には、コードは「0」に設定されています。
- 設定するときは、本機の電源スイッチを「切」にした状態で行ってください。電源スイッチを「入」にしたままで設定を変更しても、コードは切り換わりません。

1 電池カバーを外して、電源スイッチを「入」にする。

- 2 セキュリティ表示灯が消灯していることを確認する。
点灯している場合、P. 15「セキュリティ ON から OFF への切り換えかた」を参照して、セキュリティ ON から OFF へ切り換えてください。
- 3 電源スイッチを「切」にする。
- 4 付属の設定用ドライバーで、コード設定スイッチを設定したいコード番号に合わせる。
- 5 電池カバーを元どおりにはめ込む。
- 6 チューナーにも同じコードを設定する。
設定のしかたについては、チューナーに付属の取扱説明書をお読みください。



■ 送信出力切換スイッチの設定

送信出力は、6 mW（送信出力切換スイッチが「H」の位置）と 1 mW（送信出力切換スイッチが「L」の位置）の 2 段階に切り換えられます。

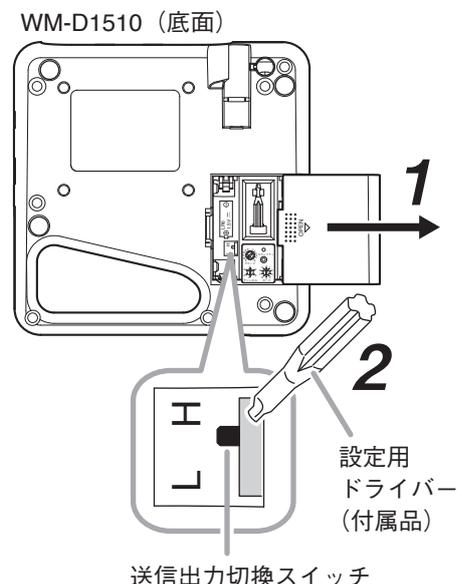
お買い上げ時は「H」に設定されています。

チューナーに付属の取扱説明書も併せて参照し、使用環境に合わせて設定してください。

ご注意

設定するときは、本機の電源スイッチを「切」にした状態で行ってください。

- 1 電源スイッチが「切」になっていることを確認し、電池カバーを外す。
- 2 付属の設定用ドライバーで、設定したい送信出力に合わせる。
広い範囲（エリア）で使用する場合は、「H」に設定してください。
近接する場所で同じグループ・チャンネルを重複して使用する場合には、必要な電波の届く範囲に合わせて「L」に設定し、互いに電波が混信しないようにしてください。
送信出力切換スイッチの設定による連続使用時間については、P. 17「連続使用時間の目安」を参照してください。
- 3 電池カバーを元どおりにはめ込む。

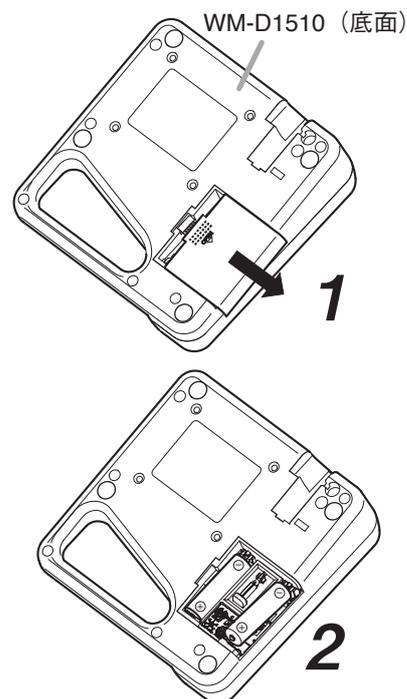


電池の使いかた

電池は、単3形アルカリ乾電池（LR6）をお使いください。

■ 電池の入れかた

- 1 電源スイッチを「切」にし、電池カバーを外す。
- 2 電池収納部の（+）と（-）の表示に合わせて、電池（2本）を入れる。
- 3 電池カバーを元どおりにはめ込む。



ご注意

電池を取り出すときも、必ず電源スイッチを「切」にしてください。電源スイッチを「入」にしたまま行くと、雑音が出ることがあります。

■ 電池の使用時間の目安

● 残り使用時間の目安

電池の容量が十分あるときはバッテリーチェッカーの緑色灯のみが点灯します。電池の消耗が進むと、緑色灯と赤色灯が同時に点灯します。そのまま使い続けると赤色灯のみの点灯に変化します。赤色灯のみになったら、新しい電池と交換してください。



[バッテリーチェッカーの状態による残り使用時間の目安]

バッテリーチェッカーの状態	残り使用時間
緑色灯のみ点灯	1～8時間
緑色灯と赤色灯が同時に点灯*	数十分～1時間
赤色灯のみ点灯*	電池要交換
緑色灯と赤色灯が共に消灯*	

メモ

ACアダプターでの駆動中は常時緑色灯のみが点灯します。

* この状態で AC アダプターの使用に切り換えるときは、電源スイッチを「切」にして電池を取り出してから AC アダプターを接続してください。

● 連続使用時間の目安

電池の連続使用時間は、送信出力切換スイッチ*の設定により異なります。

[連続使用時間の目安]

送信出力切換スイッチの位置	連続使用時間
H	約8時間
L	約9時間

* 詳しくは、P. 16「送信出力切換スイッチの設定」をお読みください。

ご注意

周囲温度などの使用条件によって使用できる時間は変化します。

上手な使いかた

● 本体マイクと口元の距離

マイク部は口元から 5 cm 程度離すようにすると、音の明瞭性が良くなります。

● 本機と他のワイヤレスマイクの距離

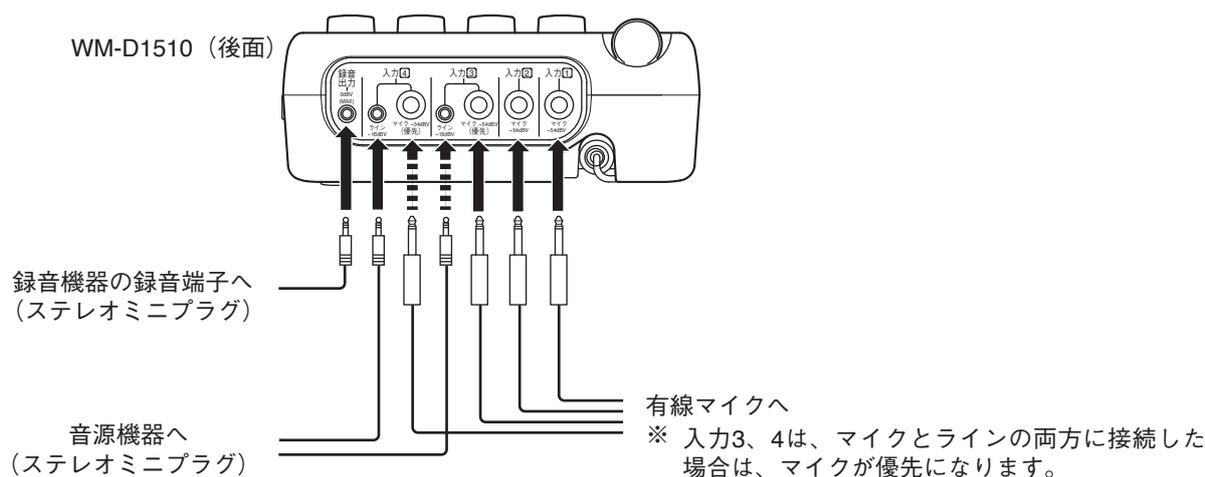
同じ場所で他のワイヤレスマイクを使用するときは、本機と他のワイヤレスマイク間の距離を 50 cm 以上離して使用してください。近づけ過ぎると、混信したり、音が途切れたりすることがあります。

● 本機と受信アンテナの距離

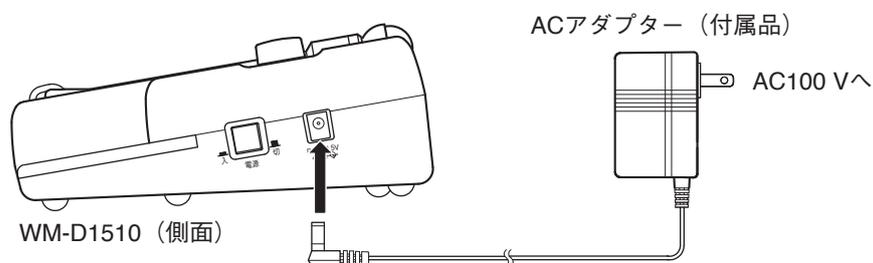
本機と受信アンテナの距離は、3 m 以上*（送信出力「L」設定時は 2 m 以上*）離して使用してください。距離が近過ぎると、混信したり、誤動作したりすることがあります。やむをえず近づけて使用する場合は、ワイヤレスチューナーのアンテナアッテネーターを入れることをお勧めします。

* アンテナの設置場所や同軸ケーブルの長さにより異なります。

接続のしかた



● AC アダプターを使用するとき



ご注意

AC アダプターの接続を外したり、コンセントから抜いたりするときは、必ず電源スイッチを「切」にしてください。電源スイッチを「入」にしたまま行くと、雑音が出る場合があります。

操作のしかた

- 1 電源スイッチを「入」にする。
電源表示灯の緑色灯が点灯します。



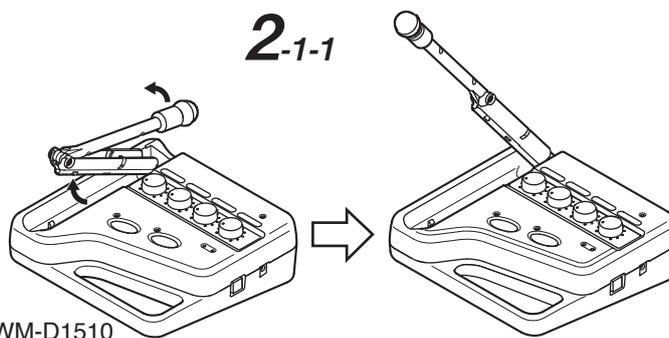
2 放送する。

2-1 本体マイクから放送するとき

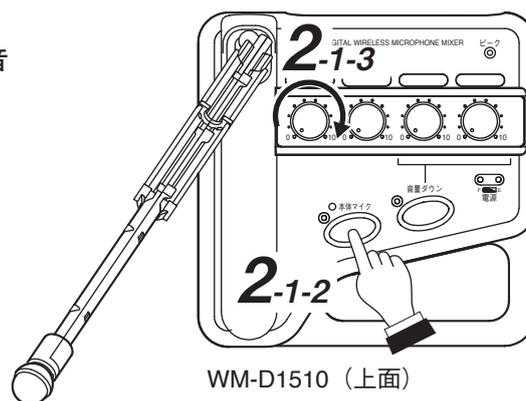
ご注意

入力1端子にマイクが接続されているときは、本体マイクは使用できません。入力1端子に何も接続されていないことを確認してからお使いください。

- 1 本体マイクのアームを起こしてマイクを口元にセットする。



- 2 本体マイク ON/OFF スイッチを押す。
本体マイク ON/OFF 表示灯が点灯します。
- 3 本体マイク音量調節つまみを時計回りに回して適切な音量に調節する。
- 4 マイクに向かって話す。
- 5 放送が終わったら本体マイク音量つまみを最小に戻す。
- 6 本体マイク ON/OFF スイッチを押してマイクを切る。
本体マイク ON/OFF 表示灯が消灯します。



2-2 本体マイク以外から放送するとき

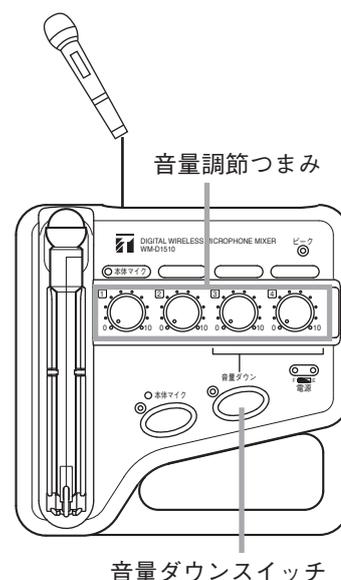
- 1 各音量調節つまみを時計回りに回して適切な音量に調節する。
- 2 マイク放送をする。
- 3 放送が終わったら各音量調節つまみを最小に戻す。

- 3 すべての放送が終わったら、電源スイッチを「切」にする。
電源表示灯が消灯します。

● 便利な機能 (音量ダウンスイッチの使いかた)

音量ダウンスイッチを押すと、入力3、4に接続された機器の音量が小さくなります。(減衰量 20 dB)

例えば入力1、2を使用してマイク放送をするとき、音量ダウンスイッチを押すことにより、入力3、4に接続しているBGMなどの音量を簡単に一定量減衰させることができます。

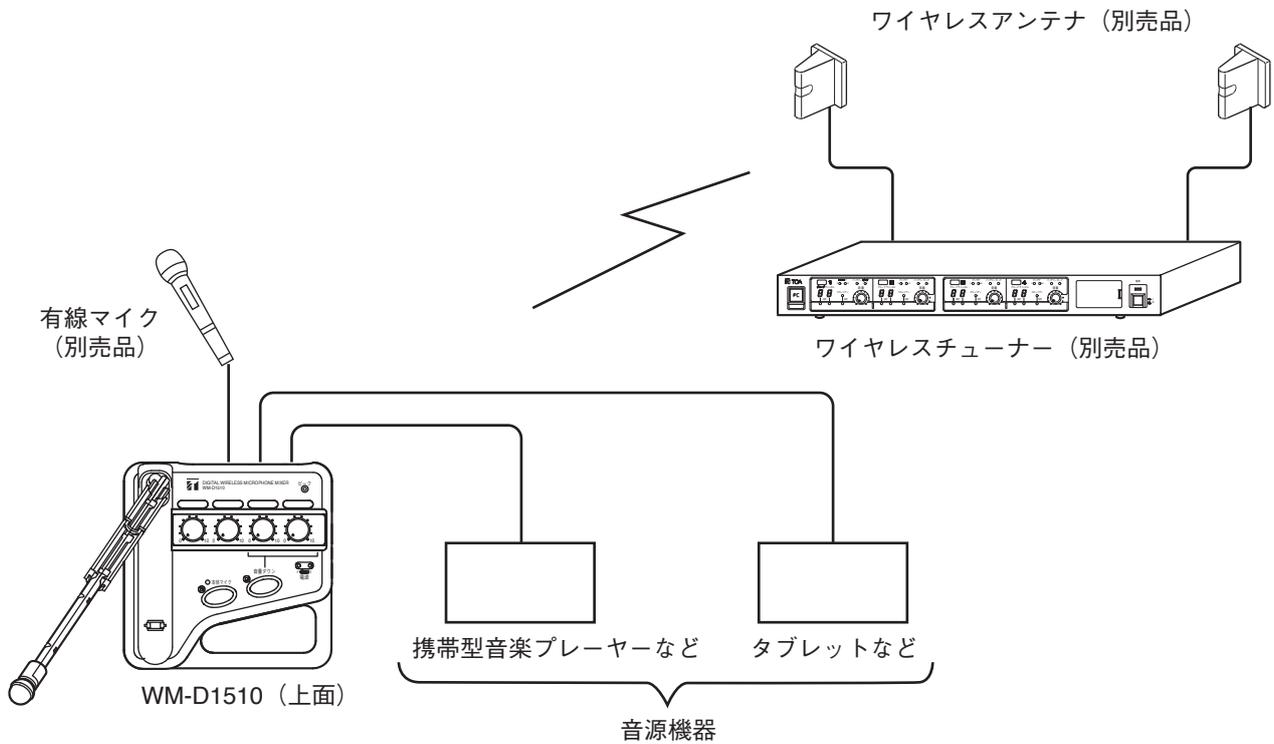


使用例

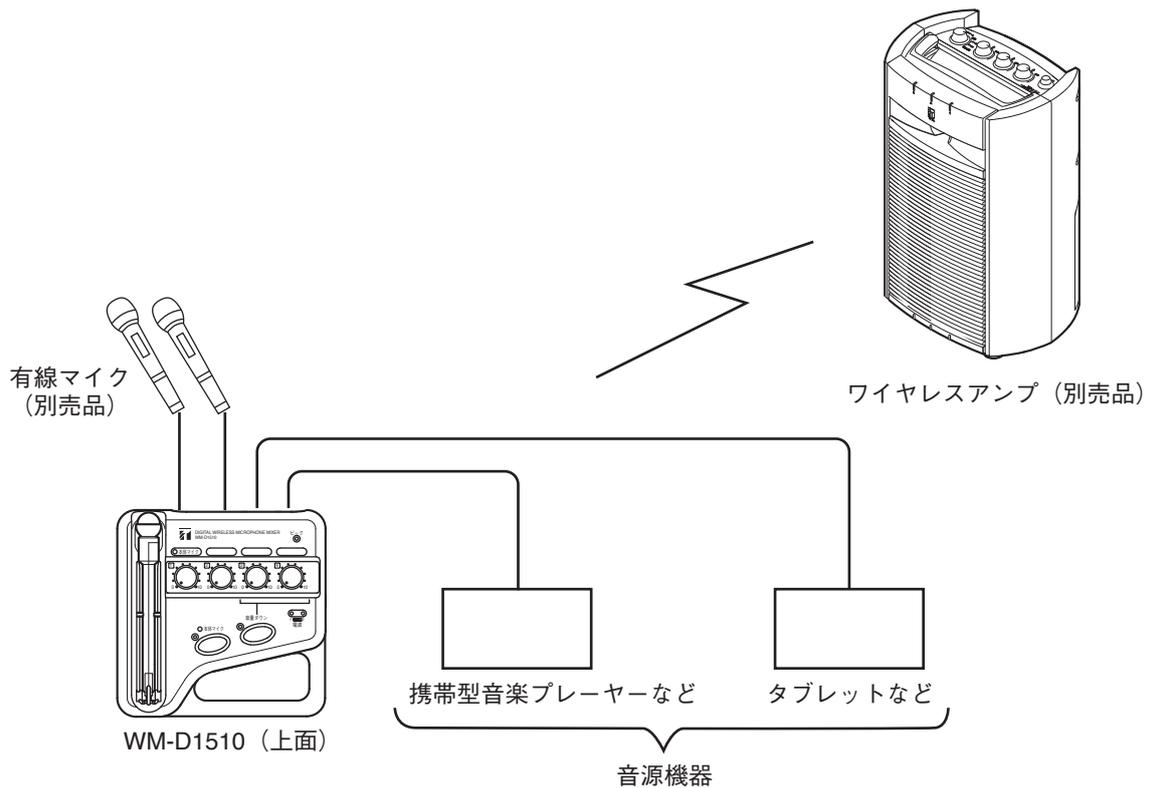
■ 本体マイクを使用するとき

ご注意

入力1端子にマイクが接続されているときは、本体マイクは使用できません。入力1端子に何も入力されていないことを確認してからお使いください。



■ 本体マイクを使用しないとき



故障かな？と思ったら

症 状	確かめるところ	対処のしかた
電池を使用のとき、電源スイッチを「入」にしても電源表示灯（緑色灯、赤色灯とも）が点灯しない。	電池の極性は正しいですか？	電池を正しく入れ直してください。 (P. 17)
	電池が消耗していませんか？	新しい電池と交換してください。 (P. 17) 消耗した電池を取り出して、ACアダプターを接続してください。
AC電源で使用のとき、電源スイッチを「入」にしても電源表示灯（緑色灯、赤色灯とも）が点灯しない。	ACアダプターのコネクタが抜けていませんか？	ACアダプターのコネクタをしっかり差し込んでください。
電池を使用のとき、電源スイッチを「入」にすると電源表示灯の赤色灯が点灯する。	電池が消耗していませんか？	新しい電池と交換してください。 (P. 17) 消耗した電池を取り出して、ACアダプターを接続してください。
	周波数表にないグループ、チャンネルに設定されていませんか？	「周波数表」を見て、グループ、チャンネルを設定し直してください。 (P. 10、P. 11)
電源スイッチを「入」にすると電源表示灯が緑色と赤色の交互に点灯する。	グループまたはチャンネル設定スイッチの矢印が番号と番号の間で止まっていますか？	グループまたはチャンネル設定スイッチの矢印を設定番号に合わせてください。
	本機とワイヤレスチューナーは同じグループ、チャンネルに設定されていますか？	本機とワイヤレスチューナーを同じグループ、チャンネルに設定し直してください。 (P. 10、P. 11)
電源スイッチを「入」にすると、ワイヤレスチューナーの受信状態表示灯が赤色に点灯する。	本機とワイヤレスチューナーユニットのモード切換スイッチの設定は同じになっていますか？	同じモードに設定してください。 (P. 12)
	本機とワイヤレスチューナーのセキュリティ設定が合っていますか？	本機とワイヤレスチューナーのセキュリティ設定をONにしてください。 (P. 14) セキュリティ設定が両方ともONのとき、本機とワイヤレスチューナーのIDを合わせるため、再度セキュリティ設定を行ってください。 (P. 14)
	本機とワイヤレスチューナーのコード設定が合っていますか？	本機とワイヤレスチューナーのセキュリティ設定をOFFにしてください。 (P. 15) セキュリティ設定が両方ともOFFのとき、本機とワイヤレスチューナーのコードを合わせてください。 (P. 15)

症 状	確かめるところ	対処のしかた
WTU-D2810 を組み込んだ機器のワイヤレス受信表示灯が点滅する。	本機と WTU-D2810 のモード切換スイッチの設定は同じになっていますか？	同じモードに設定してください。(P. 12)
	本機のセキュリティ設定が OFF になっていますか？	本機のセキュリティ設定を OFF にしてください。(P. 15)
	本機と WTU-D2810 のコード設定が合っていますか？	本機と WTU-D2810 のコードを合わせてください。(P. 15)
同時に使用している他のワイヤレスマイクと混信する。	「周波数表」どおりのグループとチャンネルの組み合わせになっていますか？	「周波数表」を再度確認し、適切なグループ、チャンネルに設定してください。(P. 10、P. 11)
頻繁に音声の途切れが生じて放送ができない。	本機と他のワイヤレスマイクの距離が近づき過ぎていませんか？	本機と他のワイヤレスマイクの間隔は 50 cm 以上離して使用してください。
	本機が受信アンテナに近づき過ぎていませんか？	本機は受信アンテナから 3 m 以上* (送信出力「H」設定時) または 2 m 以上* (送信出力「L」設定時) 離して使用してください。
本体マイクから音が出ない。	入力 1 端子にマイクが接続されていませんか？	入力 1 端子に接続しているプラグを抜いてください。
	本体マイクのプラグが抜けていませんか？	プラグを確実に差し込んでください。
本体マイク ON/OFF スイッチを押しても本体マイク ON/OFF 表示灯が点灯しない。	入力 1 端子にマイクが接続されていませんか？	入力 1 端子に接続しているプラグを抜いてください。

* アンテナの設置場所や同軸ケーブルの長さにより異なります。

仕 様

電 源	AC100 V、50/60 Hz : AC アダプター (付属) 使用 (DC4.5 V) DC3 V : 単 3 形アルカリ乾電池 (LR6) 2 本使用 2 電源方式
消 費 電 流	170 mA (AC アダプター / 電池使用時)
電 波 型 式	F1E/F1D
送 信 周 波 数	806.125 ~ 809.750 MHz (30 波のうち 1 波)
発 振 方 式	水晶制御 PLL シンセサイザー方式
変 調 方 式	FSK 方式
定格空中線電力	1 mW (送信出力 : L) / 6 mW (送信出力 : H)
到 達 距 離	条件の良い屋外で 約 60 m : 1 mW (送信出力 : L) 約 100 m : 6 mW (送信出力 : H) ※ 受信側 ATT : 0 dB 時
占有周波数帯域幅	165 kHz 以下 (10 ch モード) / 145 kHz 以下 (15 ch モード)
最大入力音圧	110 dB SPL (音量ボリューム最大時) 120 dB SPL (音量ボリューム 7 目盛時)
入力等価雑音	43 dB SPL 以下 (A カーブ使用)
入 力	マイク : -54 dB *, 2 k Ω 、不平衡、 φ 6.3 ホーンジャック (2P) (入力 1 ~ 4) ライン : -16 dB *, 10 k Ω 、不平衡、 φ 3.5 ミニジャック (3P : ステレオ) (L + R モノラル、入力 3、4 切り換え) 本体マイク (切換式) : -46 dB *, 600 Ω 、不平衡、 φ 3.5 ミニジャック 2P (入力 1 切り換え) ※ 定格入力レベルは音量ボリューム最大、入力音圧 94 dB SPL となる入力レベル
録 音 出 力	0 dB *, 1 k Ω 、不平衡、φ 3.5 ミニジャック (3P : ステレオ) (L + R モノラル)
本体マイクロホン	単一指向性エレクトレットコンデンサー型
周 波 数 特 性	マイク : 150 Hz ~ 12 kHz ライン : 80 Hz ~ 12 kHz
同時使用本数	15 本 (15 ch モード) / 10 本 (10 ch モード) / 6 本 (アナログ併用時)
コ ー ド 設 定	10 パターン切り換え
電池持続時間	約 8 時間 (送信出力 : H 時)、常温・連続使用時
ア ン テ ナ	内蔵型
付 帯 機 能	折りたたみ収納式本体マイク (入力 1 外部マイク接続時は使用不可) 本体マイク ON/OFF スイッチ (本体マイクに対し有効) 音量ダウンスイッチ : 減衰量 20 dB (入力 3、入力 4 に対し有効)
表 示	電源 / 電池残量表示、入力ピーク表示、本体マイク ON/OFF 表示、音量ダウン表示
使用温度範囲	0 ~ 40 °C
使用湿度範囲	30 ~ 85% RH (ただし結露のないこと)
仕 上 げ	上ケース : ABS 樹脂、黒 (マンセル N1.0 近似色) 下ケース : ABS 樹脂、グレー (マンセル N6.0 近似色) 本体マイク : ポリアセタール樹脂、グレー (マンセル N6.0 近似色)
寸 法	166 (幅) × 69 (高さ) × 168 (奥行) mm (マイク収納時、突起部含む)
質 量	520 g

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

AC アダプター	1	チャンネルシール (デジタル)	1
チャンネルシール (アナログ)	1	入力表示シール	1
設定用ドライバー (本体内部蔵)	1	収納袋	1

アフターサービスについて

● 保証書について

保証書は販売店からお渡しします。必ず「販売店・購入日」など記入をお確かめになり、保証内容をよくお読みの後、大切に保存してください。

無償修理の保証期間は、お買い上げの日から1年間です。(一部消耗品を除く)

● 修理を依頼される時

取扱説明書をお読みになって、ご不明な点やご不審な点があれば、お買い上げの販売店にご連絡ください。

※ 保証期間中の修理は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店で無償での修理をお受けいたします。

ご連絡していただきたいことは、お客様のご住所・お名前・電話番号、製品名・品番・購入日、故障または異常の状況(症状)

※ 保証期間が過ぎている場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。ご希望により有料で修理します。

アフターサービスなどについて、おわかりにならないときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

TOA お客様相談センター

商品の内容や組み合わせ、操作方法についてのお問い合わせにお応えします。
受付時間 9:00～17:00(土日、祝日除く)

フリーダイヤル(固定電話専用)

0120-108-117

ナビダイヤル 0570-064-475(有料)
FAX 0570-017-108(有料)

※ PHS、IP 電話からはつながりません。

商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。最寄りの営業所については、TOA ホームページをご確認ください。

当社は、お客様から提供された個人情報をお問い合わせ対応または修理対応の目的に利用いたします。また、修理委託目的で委託先業者へ提供することがあります。個人情報の取り扱いに関する方針については、TOA ホームページをご覧ください。

TOA ホームページ <https://www.toa.co.jp/>

TOA 株式会社

133-07-00169-00